

研究課題名：社会構造の変化を踏まえた保健医療にかかる施策立案に資する
国際疾病分類の国内導入のための研究

分担項目：ICD-11V 国内導入のための支援ツール作成 採点用リファレンス
ガイドの更新および既存の評価尺度との比較

研究分担者：向野 雅彦（北海道大学病院リハビリテーション科 教授）

研究分担者：小松 雅代（大阪大学大学院医学系研究科社会医学講座環境医学 助教）

研究要旨：

疾病に関する分類に加え、ICD-11において新しく付け加えられた分類項目として、生活機能評価に関する補助セクションである「V章」がある。

生活機能の評価を担う国際生活機能分類（ICF）のダイジェスト版ともいえるICD-11のV章は、WHOが開発した生活機能の評価スケールであるWHO障害評価面接基準（WHO-DAS2.0）、モデル障害調査（MDS）およびICFに基づく"一般的機能の構成要素"と呼ばれる項目群、の3つのパートからなる。この中で特に"一般的機能の構成要素"の項目群には質問紙が付属していないため、情報収集方法の開発が行われてきた。

本研究では、ICD11のV章の国内導入のための支援ツールとして、ICD-11V章の採点リファレンスガイドの更新、および既存の評価尺度等の項目からV章の構成分析と今後の活用方法の検討に取り組んできた。今年度は、前年度に修正したICD-11V章の項目対応に基づき、既存の単施設のデータベースの生活機能評価のデータを用いて、使用例のテストを実施した。また、ICD-11VからICFを用いた詳細評価への移行を想定し、ICD-11VとICFコアセットのマッピングを実施した。

A. 研究目的

2019年5月に世界保健総会で採択されたICD-11には、疾病に関する第1章から第26章に加え、生活機能評価に関する補助セクションである「V章」が追加されている。V章は、WHO障害評価面接基準（WHO-DAS2.0）、モデル障害調査（MDS）、一般的機能の構成要素、の三つのパートから構成されている。そのうち一般的機能の構成要素とは、国際生活機能分類（ICF）の付録9「理想的および最低限の健康情報システムまたは調査のために提案されたICFデータの要件」に基づいており、ICFのダイジェスト版としての性格を持っている。この一般的機能の構成要素の項目群には質問紙が付属していないが、その臨床活用に向けて、採点をサポートする仕組みとして生活機能分類普及推進ワーキンググループにおいて採点リファレンスガイドが作成され、その信頼性、妥当性の検証が行われてきた[1]。また、本研究においては昨年度までに、使用者のフィードバックに基づきリファレンスガイドの更新に取り組むとともに、V章の項目と、既存尺度と国内で使用されている評価指標項目を比較し、V章の利活用について検討を実施してきた。

今年度は、さらにICD-11V章の実用に向けた取り組みとして、既存のデータを用いたICD-11V章の統計活用の試行に取り組んだ。また、ICD-11V章からICFを用いた詳細の生活機能評価への発展性について検討するため、ICD-11章と代表的なICFコアセットのマッピング、に取り組んだ。

B. 研究方法

1. 既存のデータを用いた ICD-11V 章の統計活用の試行

令和4年度厚生労働科学研究費補助金（政策科学総合研究事業（統計情報総合研究））ICF研究班（課題名：地域包括ケアシステムにおいて活用可能な国際生活機能分類（ICF）による多領域にまたがる評価手法の確立に資する研究）で、ICD-11V章を臨床で活用するためのいくつかの抜粋項目群が作成されている¹⁾。本研究では、そのうちもっとも基本的な3項目（共通セット：VW22 排泄、VW24 食べること、VW13-15 移動）について、既存のデータを用いて検証を行った。

藤田医科大学病院において、2004年から2022年までの間に入院し、リハビリテーションを施行し、上記3項目に関する生活機能情報が残さ

れている119,173例のうち、全例でリハビリテーションを実施している脳卒中（脳梗塞：8B11 [数字はICD-11コード]、脳出血：8B00、くも膜下出血：8B01）の診断で急性期治療を受けた患者のデータを抽出し、検討に用いた。これらのデータから、3項目が自立もしくは非自立であった割合を算出した。自立/非自立の判定には、データベース上のFIM（Functional Independence Measure）および関連情報を用いた。算出した割合の2004年から2012年までの9年間、2013年から2022年までの10年間の変化、年次推移について検討を行った。

2. ICD-11V章の"一般的機能の構成要素"のカバーするICFの項目群と、代表的なICFコアセットとのマッピング

ICD-11V章は生活機能評価の入り口として、ICFと組み合わせて使用することが想定されている。ICFの臨床活用に向けた先行する取り組みとしては、ICFコアセットと呼ばれる項目セットがWHO国際分類ドイツ協力センターにより作成され、広く知られている。ICD-11V章を生活機能評価の導入として用いる場合、次のステップとしてより病態に応じた詳細な評価を実施するにあたっては、ICFコアセットを活用することが想定される。

ICFコアセットは、特定の疾患や状況において重要な機能、障害、健康状態を特定し、評価するための基本的なフレームワークである²⁾。ICFコアセットは、ICFの全てのカテゴリから構成されるわけではなく、特定の疾患や状況に関連する最も重要な要素を選択し、組み合わせたものである。これにより、疾患や状況に応じた効率的かつ包括的な評価が可能となる。ICFコアセットには、以下の2つの種類がある。包括的ICFコアセットは、特定の疾患や状況に関連する機能、障害、健康状態を網羅的に評価するためのフレームワークである。これは、幅広い視点から個人の健康状態を把握し、より包括的な評価が求められる場面で使用される。簡易ICFコアセットは、特定の疾患や状況に関連する最も重要な機能、障害、健康状態を効率的に評価するために、必要最小限の要素に絞り込んだフレームワークである。これは、時間やリソースが限られている場面での迅速な評価が求められる場合に使用される。

ICD-11V章からICFへの発展性を考慮する上で、ICD-11V章とICFコアセットがそれぞれカバーする範囲にどれほどの共通項、相違があるのかについては十分に整理がされていない。そこで、本研究では、まず、ICD-11Vの対応するICF

項目のマッピングおよび、これまでに開発された ICF コアセットのうち汎用性の高い代表的なもの（一般セット 7 項目版、一般セット 30 項目版、代表的な疾患群（筋骨格系、循環器・呼吸器系、神経系疾患群）に対して作成された急性期・亜急性期簡易 ICF コアセット）と ICD-11V 章” 一般的機能の構成要素” との項目の重複について検討した。

C: 研究結果

1. 既存のデータを用いた ICD-11V 章の統計活用の試行

期間内に該当の診断となった症例データは 7,321 例であった（2004 年~2012 年 2,238 例、2013 年~2022 年 5,083 例）。平均年齢は 78±14 歳、男性 4,458 名、女性 2,863 名であった。2004 年~2012 年は入院時の自立割合が 7.6%であったのに対し、退院時は 34.5%であり、入院中に自立した患者の割合は、26.8%であった。2013 年~2022 年は入院時の自立割合が 11.9%、退院時は 47.9%であり、入院中に自立した患者の割合は、36.0%であった（資料 1）。年次推移では入院時の自立割合が 10%前後で大きな変化ない一方、退院時の自立割合は向上する傾向が得られた。

2. ICD-11V 章の”一般的機能の構成要素”のカバーする ICF の項目群と、代表的な ICF コアセットとのマッピング

ICD-11V 章は ICF の項目のうち、b 項目（心身機能項目）および d 項目（活動と参加項目）の 69 項目をカバーしていた。ICF コアセットのうち、ICF 一般セット 7 項目版は 7 項目中 6 項目（カバー率 85.7%）、ICF 一般セット 30 項目版は 30 項目中 27 項目（カバー率 90.0%）と大半の項目を含んでいた。疾患群別コアセットのカバー率は、筋骨格系疾患群用急性期/亜急性期セット 72.2%/68.0%、循環器・呼吸器系疾患群用急性期/亜急性期セット 47.6%/52.4%、神経系疾患群用急性期/亜急性期セット 56.0%/51.7% であった。

D: 考察

本研究では、ICD-11V 章の実用に向けた取り組みとして、既存のデータを活用した分析を試みた。共通セット 3 項目を用いることで、単施設における 2004 年から 2022 年までのデータを用いて、脳卒中患者において入院中に自立した患者の割合の変化を表現できることを示した。ICD-11V 章は、このように ICD-11 と組み合わせて用いることで、重症度の変化や治療効率の評価に活用できる可能性がある。今回用いたデー

タベースにおける脳卒中患者のように、リハビリテーション介入を行っているケースでは生活機能の評価が比較的实施されているものの、それ以外の場合には評価の対象となることが少なく、ICD-11 と組み合わせることで全体像を把握することは難しいのが実情である。このような簡易な項目セットは、疾患統計の情報の充実に活用できる可能性がある。

また、ICD-11V 章の一般的機能の構成要素と代表的な ICF コアセットとのマッピングを行ったところ、ICF コアセットのカバー率は疾患群別に異なっていたものの、少ないもので半分程度をカバーしていることが明らかとなった。この結果から、ICD-11V 章ではどの疾患群においても必要な項目について一定のカバーをしているものの、詳細の評価における ICF の重要性も明らかとなった。

今後は、ICD-11V 章を用いたシンプルな項目セットを活用することで、臨床統計における評価内容の充実を図るとともに、他の項目や ICF と組み合わせた評価の拡張方法についてもさらに検証を行うことが求められる。

E: 結論

今年度は、ICD-11V 章の臨床における活用を想定し、既存のデータを用いて ICD-11V 章の活用方法の検討を行った。また、V 章と ICF コアセットについて、関連分析を行った。

F. 健康危険情報

特になし

G. 研究発表

1 論文発表

Leonardi M, Lee H, Kostanjsek N, Fornari A, Raggi A, Martinuzzi A, Yáñez M, Almborg AH, Fresk M, Besstrashnova Y, Shoshmin A, Castro SS, Cordeiro ES, Cuenot M, Haas C, Maart S, Maribo T, Miller J, Mukaino M, Snyman S, Trinks U, Anttila H, Paltamaa J, Saleeby P, Frattura L, Madden R, Sykes C, Gool CHV, Hrkal J, Zvolský M, Sládková P, Vikdal M, Harðardóttir GA, Foubert J, Jakob R, Coenen M, Kraus de Camargo O. 20 Years of ICF-International Classification of Functioning, Disability and Health: Uses and Applications around the World. *Int J Environ Res Public Health*. 2022 Sep 8;19(18):11321.

2 学会発表

Mukaino M, Oikawa E, Yamada S. Survey with ICD-11 Chapter V on Functioning Required for Daily Living. WHO-FIC Network Annual Meeting 2022, 18th-22nd October, Geneva.

文献

1. 令和4年度厚生労働科学研究費補助金（政策科学総合研究事業（統計情報総合研究））「地域包括ケアシステムにおいて活用可能な国際生活機能分類（ICF）による多領域にまたがる評価手法の確立に資する研究」（代表：向野雅彦）
2. Selb M, Escorpizo R, Kostanjsek N, Stucki G, Üstün B, Cieza A. A guide on how to develop an International Classification of Functioning, Disability and Health Core Set. *Eur J Phys Rehabil Med.* 2015 Feb;51(1):105-17.

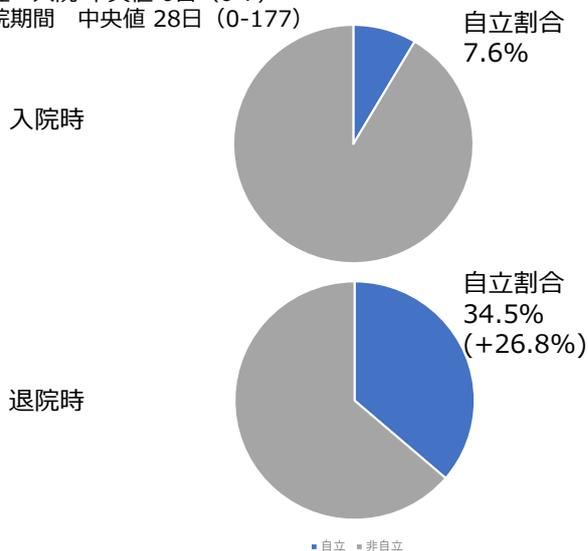
資料1 入院脳卒中患者の共通セット（食事、排泄、移動）3項目の自立割合の変化（n=7321, 単施設の検討）

脳卒中中の3項目自立割合

（脳梗塞：8B11, 脳出血：8B00、くも膜下出血：8B01）

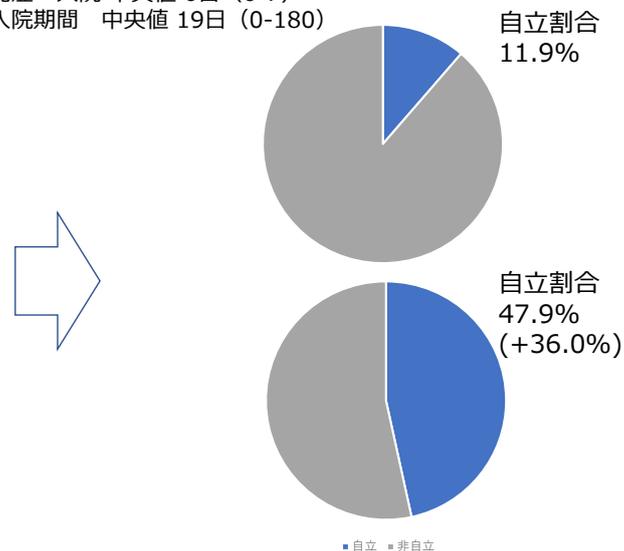
2004-2012

年齢 82±13, 男性 1338/女性 900
発症～入院 中央値 0日 (0-7)
入院期間 中央値 28日 (0-177)



2013-2022

年齢 77±13, 男性 3120/女性 1963
発症～入院 中央値 0日 (0-7)
入院期間 中央値 19日 (0-180)



項目ごとの自立割合

2004-2012

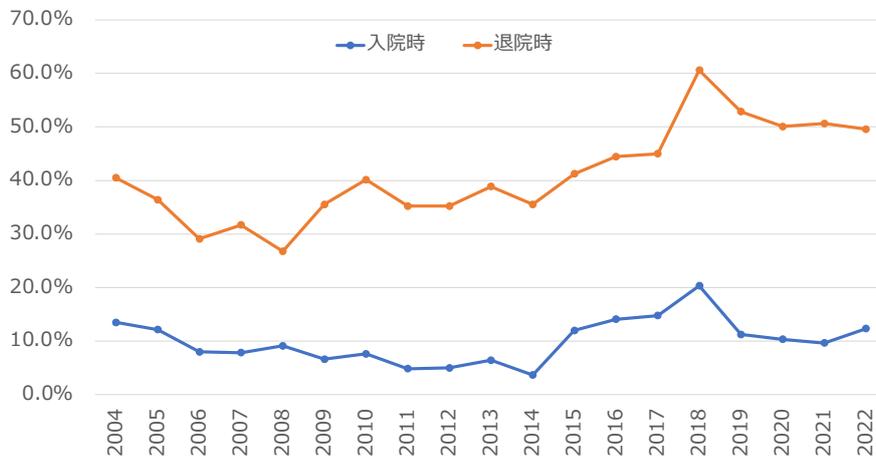
	入院時		退院時	
	自立	非自立	自立	非自立
食事	31.5%	68.5%	54.8%	45.2%
トイレ	12.7%	87.3%	41.5%	58.5%
移動	10.7%	89.3%	41.9%	58.1%

2013-2022

	入院時		退院時	
	自立	非自立	自立	非自立
食事	43.1%	56.9%	66.7%	33.3%
トイレ	16.3%	83.7%	53.2%	46.8%
移動	17.5%	82.5%	55.6%	44.4%

資料2 入院脳卒中患者の共通セット（食事、排泄、移動）3項目の自立割合の年次変化

共通セット3項目自立割合の推移



資料3 ICD-11V 章のカバー範囲と代表的な ICF コアセット

ICD-11V 章	ICF 一般セット 7 項目版	ICF 一般セット 30 項目版	筋骨格系 疾患 急性期	筋骨格系 疾患 亜急性期	循環器呼吸 器疾患 急性期	循環器呼吸 器疾患 亜急性期	神経疾患 急性期	神経疾患 亜急性期
b110					○	○	○	
b114						○		
b126								○
b130	○	○	○		○	○		○
b134	○	○		○		○		
b140	○					○	○	
b144	○							
b152	○	○	○					
b160								○
b164								○
b167							○	○
b210	○							○
b215	○						○	
b220	○							
b230	○							
b235	○						○	
b240	○						○	
b260				○		○		
b270							○	
b280	○	○		○	○			
b310	○							
b320	○							
b330	○							
b340	○							
b410						○		
b415			○		○		○	
b420					○			○
b430						○	○	
b435				○	○			
b440			○		○		○	
b445					○			
b450					○	○		○
b455	○	○	○		○			
b460					○			
b510	○				○	○		○
b515	○							
b520	○							
b525	○		○				○	
b530	○			○				○
b535	○						○	
b550								○
b620	○	○	○	○				○
b640	○	○						
b710	○	○	○				○	
b730	○	○		○				
b735			○					
b740				○				○
b755				○				
b770								○
b780				○				
b810	○					○		
b820	○					○		
b830	○							
b840	○							
b850	○							
b860	○							
s110							○	
s120							○	
s410			○					○
s430						○		
s710			○				○	
s730			○					○
s740			○					
s760			○		○			
s810			○		○			
d115								○
d130	○							
d135	○							
d140	○							
d145	○							

d150	○									
d155	○									
d170					○					○
d175	○									○
d177					○			○		
d230	○	○		○						
d240	○			○				○		
d310	○									
d330								○		
d350	○									
d360										○
d410				○	○	○	○	○	○	○
d415				○	○	○	○	○	○	
d4154	○									
d420	○			○	○		○	○	○	○
d430	○					○				
d435	○									
d440	○									○
d445	○					○				
d450	○	○		○	○		○	○		○
d455		○		○						
d460								○		○
d4600	○									
d465	○			○		○		○	○	○
d470	○			○						
d510	○			○	○	○	○		○	
d520	○			○	○	○	○		○	○
d530	○			○	○	○	○		○	○
d540	○			○	○	○	○	○	○	○
d550	○			○	○				○	○
d560									○	○
d570	○			○						
d630	○									
d640	○			○						
d660	○			○						
d710	○			○						
d730	○									
d760									○	
d770	○			○						
d850	○	○		○						
d910								○		
d920	○			○						
d940	○									
e110				○	○	○	○	○		○
e115					○	○	○			○
e120					○	○			○	○
e125								○		○
e155								○		
e225					○					
e245								○		
e250							○	○		
e260							○			
e310							○			
e315									○	
e355				○	○					○
e415								○		○
e420				○				○		
e450					○					
e455								○		
e465								○		
e550								○		○
e570							○	○		
e580							○			
